

CAMPUS NOW

早稲田大学広報

No. 236
2020/07

特集

ウィズコロナ その先へ向かつて

巻頭インタビュー
Jリーグチェアマン

村井 満



コロナ禍を超えて早稲田の進化を！

早稲田大学総長 田中愛治

いま、日本のみならず世界全体が、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックの影響を大きく受けています。コロナ禍で、ご家族・ご親族・ご友人が感染された方、あるいは亡くなられた方もいらっしゃるかと存じます。そのような方たちには、心からお見舞い、お悔やみを申し上げます。

早稲田大学は、新型コロナウイルス感染症の拡大に対して、いち早く2月27日には卒業式と入学式の中止、4月1日には春学期の授業をすべてオンラインで行うことを決定しました。4月24日には「経済的に困窮している学生への緊急支援策」を開始しました。そして、4月8日から6月21日までは、各キャンパスへの立入りを禁止しました。現在は、校舎への立入禁止などの制限を徐々に緩和しているところです。

これらの施策により、学生の皆さんにはご不便、保護者の皆様にはご心配をおかけしましたが、これらの施策を遂行したのは、2月中旬に次の三つの最優先課題を掲げていたことによります。(1) 学生と教職員の健康と生命を守ること、(2) 学生への教育を提供すること、(3) どのような環境であろうとも研究を継続すること、この三つです。これらの実現を妨げるものは諦めるという方針で、わたしたちは数々の決断をしてまいりました。

たとえば、卒業生が社会に出る前に感染してはならぬと思い、同時に、新入生の多くが感染すれば授業はできなくなると考えて、卒業式と入学式の中止を決めました。また、早稲田大学には、海外からの留学生で日本に入国できない学生が5,000名以上おり、国内にも首都圏に來られない学生が約17,000名おりました。それらの学生のためにも、春学期はすべてオンラインで授業を行う決定をしたのです。

政府の緊急事態宣言の発出後、アルバイトで生

活費・アパート代、さらには学費の一部まで稼ぐ必要のある学生たちの収入は、激減しました。そこで、「経済的に困窮している学生への緊急支援金(1人10万円)」の給付を定め、家計の急変により経済的に困窮した学生を対象に、「学費減額の緊急奨学金(1人40万円)」も用意しました。さらに、オンライン授業を全学生が履修できるように、パソコン500台とWi-Fiルーター 900台を用意して、必要な学生に無償貸与しました。

これらの施策は、「経済的な理由で、学業をあきらめる学生を1人も出たくない」という教職員の思いを結実させたものです。その背景には、わたしたち早稲田大学の教職員が、創立者である大隈重信侯が遺した「建学の精神」の一つ、「一身一家一国のためのみならず、進んで世界に貢献する抱負が無くてはならぬ」という言葉を噛みしめ、同時に国際連合のSDGsの理念の一つ、「誰一人取り残さない」を実践していきたいと考えたことがあります。

早稲田大学は、このような姿勢でコロナ禍に対応してまいりました。それは続けていきます。そのうえで、早稲田大学が長期的には何をを目指すのかを述べたいと思います。

わたしは、2018年11月に総長に就任して以来、「世界で輝くWASEDA」を目指すことを目標に掲げ、早稲田の学生が将来は何らかの形で世界人類に貢献できるように育てていこうと、教職員に語りかけてきました。そのために力を入れているのは、「たくましい知性」と「しなやかな感性」を育むことです。このたびのコロナ禍もそうですが、今日、人類が直面している問題の多くは、誰も答えを知らない未知の問題ばかりです。わたしは、そうした答えのない問題に、自分なりの解決策を考

えて挑戦する思考力を「たくましい知性」と呼んでいます。また、「しなやかな感性」とは、異なる国籍・人種・民族・言語・宗教・文化・価値観・性別・性的指向性などを持つ人々の考え方を理解し、広い視野から物事の解決策を考えられる感性を指しています。早稲田大学は、「たくましい知性」と「しなやかな感性」を持つ学生を育成してまいります。

そのため、早稲田大学で力を入れている教育が、全ての学部が学べる基盤教育です。早稲田大学は、大学で学問を修めるうえで必須であり、社会に出てからも知的職業で必要とされるアカデミックツールを基盤教育の五つの柱としています。それが、(1) 日本語のアカデミックライティング「学術的文章の作成」、(2) 英語の発話とアカデミックライティング、(3) 数学の論理的思考、(4) データ科学入門、(5) 情報科学の基礎です。これらの中で、すでに産業界からも注目されているものが、(1) 日本語と(2) 英語の「アカデミックライティング」、そして(4) データ科学入門です。

米国や英国の一流大学では、論理的な英語の文章の書き方を全学生の必修としています。その日本語版が(1)「学術的文章の作成」で、英語版が(2)「Academic Writing & Discussion in English」なのです。これにより、学士号を持つに相応しい論理的な文章を日本語と英語で書くことができるようになります。

(4) データ科学入門は、履修者は理系だけでなく、約3分の2以上が文系学生です。文系で数学が苦手な学生でも、「ビッグデータをAI(人工知能)で分析したくないか」と聞けば、多くの者が関心を持ちます。ただ、データ科学は、それだけを勉強しても意味がなく、専門性と組み合わせることで新しい価値を創造できます。たとえば、クレジットカードの利用者のビッグデータからマーケ

ティング戦略を立てるためには、データ科学だけではなく、ビジネスの理解が必要です。それは、そのほかの文系理系どの分野、文学でも、政治学でも、あるいはスポーツ科学でも同じです。早稲田大学の学生は、専門性を磨きつつ、データをツールとして使えるようになって欲しいのです。

このような実践的な教育をすべての学部学生を対象に実施しているのは、早稲田大学だけです。早稲田大学の学生の皆さんには、新型コロナウイルス感染症に負けず、ぜひとも早稲田の基盤教育を履修して、世界に通用する実力を身につけていただきたいと思います。



MITSURU MURAI

村井 満さん

「苦境を越える、強い精神を胸に」

新型コロナウイルスの感染拡大は、スポーツ界にも大きな影響を与えた。日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）は、緊急事態宣言が解除された後の5月29日、公式戦の再開を発表。リーグ運営の指揮を執るのは、Jリーグチェアマン・村井満さんだ。

「リーグ再開のため、全選手・関係者のPCR検査実施を決定しました。選手の感染予防対策もさることながら、観客やスタッフ、メディアなど、極めて多くの関係者が移動するJリーグにおいては、検温や消毒、人数制限など、スタジアムでの安全管理も徹底しなくてはなりません」

JリーグはJ1・J2・J3を含め全国56のクラブによって構成されており、各地域の感染者数やクラブの経営規模は大きく異なる。それぞれの意見を集約し結論を導き出すのが、トップとしての村井さんの責務だ。

「多様性こそがJリーグの魅力です。各クラブは地域と連動し、貢献することではじめて成り立ちます。サッカーによって地域に感染が拡大することは絶対に防がなければならないのです」

Jリーグが中断されたのは2月下旬。他のスポーツに比べても早期の決断であった。村井さんの迅速な意思決定は、どのように導かれるのか。

「Jリーグの理念の中には『国民の心身の健全な発達への寄与』『豊かなスポーツ文化

の振興』というものがあります。前者の理念に基づけば、いかなる場合であっても、スポーツの根幹である健康を犠牲にするわけにはいかないのです。同時に、後者の理念を実現するためには、サッカーだけではなく、他のスポーツを含めた視座に立つ必要があります。私はJリーグ発足から27年間受け継がれてきた理念を唯一の拠り所とし、冷静に判断を下すように心掛けています」

新型コロナウイルスにより、今後の生活様式は大きく変わりつつある。サッカーは私たちにどのような価値を与えていくのだろうか。

「1試合に多くの得点がある競技ではないからこそ1点に重みがあるサッカーは、小さなミスが失点や敗北につながるスポーツです。また試合中に転倒し、時にはけがをすることもあります。そのような場面を克服

し倒れても立ち上がる、困難を乗り越えようとする選手たちの姿は、私たちに大切なことを教えてくれます。学生の皆さんは、コロナ禍における大学生生活の変化に戸惑いもあるでしょう。しかし、社会が大きく変わる時こそ、新たな発見が生まれるはず。普段とは違う日々をただ漠然と過ごすのではなく、サッカー選手のように逆境をチャンスに変え、今後の人生の財産になるような本質的なものを見つげられる時間にしてください」



©J.LEAGUE



PROFILE

1959年埼玉県生まれ。1983年早稲田大学法学部を卒業後、株式会社日本リクルートセンター（現株式会社リクルートホールディングス）入社。同社執行役員、株式会社リクルートエイブリック（現株式会社リクルートキャリア）代表取締役社長、リクルート・グローバル・ファミリー香港法人会長などを歴任。2008年日本プロサッカーリーグ理事（非常勤）に選任。2014年5代目Jリーグチェアマンに就任。2020年に4期目を迎え現在に至る。公益財団法人日本サッカー協会副会長、公益財団法人日本プロスポーツ協会理事。

特集 ウィズコロナ その先へ向かって

世界中で猛威をふるう新型コロナウイルス。

早稲田大学はキャンパスへの一時的な立ち入り禁止など、

感染予防策を徹底した上で、

授業のオンライン化をはじめとしたあらゆる取り組みを進めています。

今号では、大学としての対応、

新型コロナウイルスに立ち向かう研究者・卒業生・在学生の活躍を通じ、

ウィズコロナにおける早稲田の姿をお伝えします。

※掲載内容は取材時のものです。

※今号の制作は、オンライン取材など十分な感染対策の上で実施しています。



秋学期は、可能な範囲での対面授業実施の準備を進めています。

新型コロナウイルスに関する本学の大切なお知らせは、ウェブサイトでご覧になれます。

最新情報はこちらでご確認ください。



春学期の授業をオンラインで実施

どんな場所でも受講できる、世界標準のLearning Management Systemを導入

「Waseda Moodle」がスタート

春学期の授業は、原則オンラインで実施しています。新型コロナウイルスの影響によって教室に集まる対面授業ができなくなり、海外の大学をはじめ日本の各大学でもオンライン授業を行っています。早稲田大学では2020年度から「Waseda Moodle」というLMS(授業支援システム: Learning Management System)を導入しました。「Moodle」は、現在世界230カ国、7,000万人以上が利用しているLMSで、Waseda Moodleは

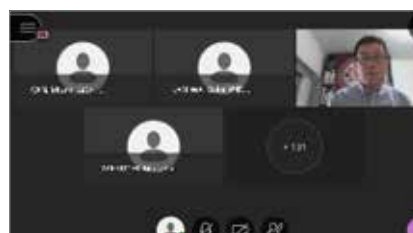
Moodleの機能をベースに一部の設定を早稲田大学用にカスタマイズしたものです。

Waseda Moodleは、スマートフォンやタブレットなどのあらゆるデバイスに対応し、直観的に操作しやすい画面になっています。利用言語は11言語から選択でき、スケジュールと連動した学習タスクの表示など、履修者ごとに最適な学習環境を提供しています。また、今後も定期的なアップデートを行って機能を拡充していきます。

本学では2013年度に策定したWaseda Vision 150において、オンライン授業と対面授業を組み合わせたブレンDEDラーニングを推進するプロジェクトを掲げています。Waseda Moodleは、ICTを活用した教育の基盤システムとして、教員の多様な教育方法を実現し、場所や時間に縛られない学生の自学自修に貢献するために導入されました。グループワークや課題提出の効率化など、オンラインならではの授業進行が可能になっています。



各講義のお知らせや資料の確認、レポートの提出などができる「コース画面」



リアルタイムで配信される授業の様子

3つの形式で実施されるオンライン授業

1 講義資料・課題提示による授業

スライド資料などを教材として学びます。

2 講義動画のオンデマンド配信による授業

事前に収録された講義の動画を視聴することで学びます。

3 リアルタイム配信による授業

リアルタイムで配信される講義や双方向での議論を通して学びます。

利用学生の声

海外の学生も活用!

国際教養学部4年 岡テオドーラさくらさん

イタリア帰省中に感染拡大 日本で学生生活を送ることを決意

今年のはじめに両親のいるイタリアに帰省していたのですが、感染者数が急増し、大学の授業もどうなるかわからなかったのが、一人で日本に戻ることを決めました。国際学生寮WISHに住んでおり、最後の学生生活を安全に過ごしたいという思いから、現在は日本でオンライン授業を受けています。最初は慣れない部分もありましたが、先生の声も聞きやすく、学生も意見を言うことのできる形式が新鮮でした。自宅での学習は、時間にゆとりがあるときにじっくりと取り組み、授業の課題は、内容を忘れないように、授業を受けたその日に終わらせるようにしています。

オンライン授業は利点が多いですが、私は今学期で卒業する予定なので、キャンパスに戻ることができたら友人と大隈庭園でお昼ご飯を食べたいです。

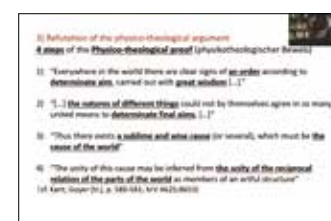


国際教養学部4年 梁逸飛さん

台湾に残って オンライン授業で学習

私は台湾出身で、3月は母国に帰省していました。当初は1か月ほどで日本に戻るつもりでしたが、4月に入国制限が発せられ、台湾が防疫を徹底していることもあったので、残ってオンライン授業を受けることに決めました。オンライン授業は、実家でパソコンを使用して受講しています。資料がデータになるので整理するのが困難でしたが、他のキャンパスの授業も移動せずに受けられるなど、良い点もたくさんありました。

お気に入りの授業は樋口裕子先生の「中国語字幕翻訳1」です。中国語の映画に日本語の字幕を付ける内容で、日本語・中国語のどちらの学習者にとっても語学力を身に付けられます。先生が動画で詳しく説明し、面白いネタも入れてくれるので、オンラインでも楽しくやりがいがあります。リアルタイム配信ではないため、週の好きな時間に受講でき、自分のスケジュールに合わせられる点も便利です。



岡さんが受講して良かったという哲学の授業「History of Metaphysics and of its Critique」の画面。さまざまな哲学者たちの意見や見解をすり合わせていく



授業の様子。受講の際はWi-Fi回線と有線の回線を使い分けるという





Waseda Moodleで実現する 新たな学びの形

Waseda Moodleは、授業のオンライン化だけでなく、新たな形式の学習も可能にします。
あらゆる機能を活用した事例の一部をご紹介します。

政治経済学術院教授 生駒美喜

多言語対応システムで、 語学をアップデート

担当する「独語実践演習ⅢA」では、2019年度春学期からトライアルとしてWaseda Moodleを導入していました。Waseda Moodleは複数の外国語に対応しているだけでなく、利用者ごとに言語を設定することができます。例えば、私が見る画面は日本語表示でも、ドイツ語圏出身のTA※の画面ではドイツ語で見ることができます。これにより、グループワークで提出資料を常にチェックしているTAが、ドイツ語の間違いをチェックするなどの分業も可能になります。

※ティーチング・アシスタント



理工学術院教授 鹿又宣弘

世界標準のシステムで、コンテンツ利用が拡充

Waseda Moodleで大きな魅力を感じているのは、外部コンテンツとの共有の可能性です。Waseda Moodleは、現在世界中で標準とされているMoodleをベースとして開発されているので、今後生まれる世界中のさまざまなサービスともスムーズに連携できる可能性が高いです。特に理系の領域では国際水準で書かれた英語版のテキストがよく使われるので、外部のグローバルなコンテンツを手軽に利用できる環境を整えることは、大きなアドバンテージとなると思います。



理工学術院教授 山名早人

小テストに工夫を施し、学生の深い理解を促進

内容の理解度を確認するために小テストで、さまざまな新機能を活用しています。問題をカテゴリに分けて保管できる「問題バンク」という機能には、全問正解するまで何度でも受験が可能というオプションがありますが、受験1回ごとに点数を減少させる設定にすることで、高得点を目指した真剣な取り組みを促しています。また、自由記述の問題では、あらかじめ想定される回答にコメントを用意して、自動採点と同時にフィードバックを送付できるようにしています。





オンライン相談で 就職活動をバックアップ

アドバイス&情報交換で就活生の不安や悩みを解決

一連のキャリアサポートをオンライン化

学生のキャリアデザインをサポートするキャリアアセンターでは、新型コロナウイルスの影響下でも変わらぬ就職活動支援を継続して、取り組みを推進しています。今年度の就職活動は、新型コロナウイルスの影響により面接や会社説明会のオンライン化が進み、OB・OG訪問なども難しいため、学生が対面での情報を収集しにくいことが特徴です。また、採用スケジュールの後ろ倒しなどにより、多くの学生が不安を抱えています。こうした課題を解決すべく、緊急事態宣言発出の翌日より、いち早くオンライン化を主軸とした体制で支援しています。

例えば、対面によるキャリア・就職個別相談は、オンラインで実施しています。経験豊富な職員に加え、国家資格であるキャリアコンサルタントの資格を有した外部スタッフの方々にも協力いただき相談に対応しており、ニーズに応じて一日最大



オンライン相談の様子。面談は予約制で、平日の10:00～18:00に受けることができる

10名以上稼働する形で対応しています(一部の職員もキャリアコンサルタントの資格を有しています)。オンライン相談では、従来の一般的な相談に加え、ウェブでの就職活動における注意点もアドバイスしています。また、5月および6月には「オンライン就活情報交換会」という新たな取り組みを急遽実施し、学生同士で不安や悩みを共有し、情報を交換する仕組みをつくりました。オンラインで5人のグループに分かれて話し合い、各グループの情報を全体に共有するものです。キャンパスに入れないことで「周囲の就活生の動向がわからない」という声があったことから、学生が現状を客観的に把握できるように企画しました。

従来キャンパスで開催していた企業合同説明会もオンラインで実施しています。企業の説明をオンラインでライブ配信し、学生は視聴と、チャット機能を使用して質問をします。7月から9月にかけて、1日あたり5～6社、全部で100社を超える企業を招いて実施しています。引き続き、新卒採用の動向を見据えながら就活生の皆さんの不安や心配ごとが少しでも軽減できるよう支援を継続していきますので、皆さんもキャリアセンターを積極的に活用して情報をうまく収集しながら、自身の将来像がぶれることのないよう、臨んでほしいです。

受け付けています。
相談なども
ウェブ面接の

キャリアセンター
スタッフ
成相雅明





学生の健康を守る 保健センターの取り組み

孤立から生じる不安をカウンセラーがケア

相談窓口の段階的な再開



保健センター 所長
堀 正士



診療室、検査室、こころの診療室が設置される保健センター。入口がキャンパス外に面しており、学内を経由せずに入館できる



健康相談などを行う保健管理室

学生の健康を管理する保健センターでは、診療室、こころの診療室、学生相談室などの窓口で不調や悩みの相談を受けています。新型コロナウイルスによるキャンパス立ち入り禁止により、窓口を一時期に閉鎖しましたが、現在は職員の出校状況に応じて段階的に再開しています。

閉鎖期間中は、身体的な不調については電話などでの相談を受け付けていました。一方で、精神面のカウンセリングは対面で行うことが重要であり、早期の復旧が必要でした。そうした中で、まずはメール相談を始め、相談内容の動向を把握した上で、密接しないような厳重な環境管理のもと、6月22日より窓口の一部を再開しました。学生相談室では専門のカウンセラーが、常勤・非常勤あわせて21名が対応していますが、職員の出校人数制限があるため、今後は段階的に受け入れ件数を増やしていく予定です。また、戸山、西早稲田、所沢キャンパスの窓口機能の早急な復旧も目指すとともに、オンラインによる面談も導入する予定です。

今回特に顕著になった課題は、新入生のメンタルヘルスケアでした。入学後、キャンパスに入ることができず、人間関係を築けないまま、オンライン授業などに取り組まなければならない新入生は、友人や先輩に授業や学生生活の相談ができないことから、不安や疲労が溜まっています。こうした状況が3カ月続いていることから、保健センターでは利用促進をはじめとするサポートを推進しています。また、留学生の一部は入国自体ができません。孤立による不安や情報不足が生じないために、英語での情報発信を強化しているところです。

相談窓口については、他大学とも連携して課題や解決策などの情報を交換しながら、早稲田大学に適した対応方法を随時改善していきたいと考えております。また、学生のささいな疑問にも応えられるような、より相談のしやすい体制を目指していきます。

相談窓口については、他大学とも連携して課題や解決策などの情報を交換しながら、早稲田大学に適した対応方法を随時改善していきたいと考えております。また、学生のささいな疑問にも応えられるような、より相談のしやすい体制を目指していきます。



行動制限中でも可能な ボランティア活動を推進

学生の発案で、新宿区へマスクを提供

WAVOC学生リーダー
政治経済学部2年
高山実女さん



マスク支援ボランティア を実施

平山郁夫記念ボランティアセンター(WAVOC)では、学生のボランティア活動をバックアップしてきましたが、今回の新型コロナウイルス感染拡大を受け、全てのプロジェクトを休止しました。そうした状況下で、「自宅から参加できるボランティアの機会を提供することはできないか」という意見がWAVOC学生リーダー※の話し合いから生まれ、余剰マスクを医療・福祉施設に支援する「マスク支援ボランティア」を実施することになりました。

※学生のボランティア活動の企画や運営を担う、WAVOCが雇用する学生スタッフ

「マスク支援ボランティア」は、学生、教職員、他大生を対象に余剰マスクを集め、新宿区社会福祉協議会に提供するプロジェクトです。新型コロナウイルスの影響で多くの方がつらい思いをしている中で、マスク不足で困っている方を支援したいと感じて提案しました。

5月の大型連休明けに準備を始め、5月21日に告知を開始。数日間で手作りマスク、政府支援マスク、市販マスクなど200枚以上が集まりました。7月10日現在では730枚、参加者数は75人を上回り、卒業生や一般の方からも寄付していただいています。多くの方のご参加いただいたことは、とてもうれしかったです。

私たちはこれからも、マスクとともに支援に協力して下さった方々の思いを、1人でも多くの方のもとへ届けられるように活動を続けていきます。そして今後は、当企画のように行動が制限される中でも実施できるボランティア企画を検討していきたいです。



寄付されたマスク。寄付者はメッセージを添えることができる

入学前にやっておいた方が
いいことは？
時間割は
どうやって作るの？

基本的な疑問を
先輩に相談！

早稲田大学 こうはいナビ

新入生が抱える大学生活に関する基本的な疑問を、先輩学生や職員に質問することができ、大学の公式プロジェクト「こうはいナビ」では、新型コロナウイルスの影響を受け、対面で行っていた相談を一時的にSNSに切り替えました。想定していた人数以上の学生が利用し、科目登録の方法から一人暮らしの悩みまで、新入生の不安を解消する一助になっています。8月中旬以降、例年オープンキャンパスで実施していたトークライブ企画に代わる全国の受験生向けオンライン企画を実施予定です。詳細は公式SNSをご確認ください。



見直されるべき情報との接し方

政治経済学術院准教授

田中幹人



専門家会議や厚労省クラスター対策班などの関係者で組織される「新型コロナウイルス感染症に関する専門家有志の会」に参加し、新型コロナウイルス関連の正確な情報発信に取り組んできました。情報発信の起点となるウェブサイトは、「秒で理解、秒で拡散」をコンセプトとし、全ての世代に伝わるように、専門的な情報がわかりやすく届くようにメンバーで議論を重ねて作っています。

私の専門はメディアの分析で、人々が情報ツールを使用してどのように社会的課題に対して議論を重ねていくかを研究しています。新型コロナウイルスに関する情報は、マスメディアやSNSを通じて世の中にあふれるようになりました。その結果、間違った情報が拡散されたり、真に伝わるべき情報が人々に届かなかったりするという現象が発生しています。リスク分析の一翼を担う専門家と、政府やメディアとの間に認識のギャップが生じることも多々あります。こうした中で情報の設計は極めて重要であ



東京大学大学院卒業。博士(学術)。国立神経研究所研究員、早大政研「科学技術ジャーナリスト養成プログラム」客員助手などを経て、2010年より現職。科学、ウェブ、ジャーナリズムの交錯する問題について研究。

り、科学と実社会の間で生じる情報の食い違いを解消することが専門家有志の会における私の役割です。

情報の問題に直結している代表例が、医療従事者をはじめとしたエッセンシャル・ワーカーへの偏見です。マスメディアが個人の感染経路を特定するような報道をし、ネットメディアで瞬く間に広がることで、差別を受けた人々が追いつめられ、離職や転居を余儀なくされたケースもあります。感染予防対策という点では、日本は国外からも高い評価を獲得していますが、私は個人が相互に監視する、いわゆる「ムラ社会」的な風潮の結果だとも考えています。この風潮は、コロナ禍における過敏な心理状態と相まって、人を排除する深刻な差別につながるのです。自由な表現からスタートしたインターネットの社会的議論は、成熟期を迎えつつあり、コロナ以後の新しいあり方を模索すべき時期にさしかかっているといえます。



新型コロナウイルス感染症に関する専門家有志の会のウェブサイト。領域の異なる複数の専門家によって、テーマごとに記事が更新されている

ウイルスとともに蔓延したストレス

人間科学学術院教授

熊野宏昭



1985年東京大学医学部医学科卒業。95年博士学位取得。東京大学心療内科医員、綾瀬駅前診療所院長、東北大学大学院医学系研究科人間行動学分野助手、東京大学大学院医学系研究科ストレス防御・心身医学(心療内科)助教授・准教授を経て、2009年より現職。

専門とする臨床心理学の領域から、新型コロナウイルスによるストレスに対してアプローチしています。今回蔓延したストレスは大きく分けて2つあります。1つ目はバーチャル(仮想的)なストレス。小説を読んでいると物語世界が頭に浮かぶのと同じで、想像と現実の区別がつかなくなり、実際には起こっていないことを恐れる現象です。正確なデータが少ない中で、メディアを通じて情報が錯綜した3~4月に顕著になりました。もう1つはリアル(現実的)なストレスです。仕事の減少や自粛生活など、現実世界から発生するもので、緊急事



今年5月に提供を開始した「Awarefy」。チャット形式で記入できる「感情メモ」、喜怒哀楽がグラフとタグで表示される「感情レポート」、マインドフルネスのレッスン機能などを搭載する

態宣言によって生活が急変した5~6月に多く見られました。余裕がなくなること感情をコントロールできなくなってしまうもので、SNSでのバッシングなどもこれに関連します。

2つのストレスは対処法が異なります。バーチャルなストレスに対処するには、想像にのみ込まれず、五感を通じて現実を正しく捉えなければなりません。その実践法であるマインドフルネスや、身体を動かしながら現実世界に触れる散歩などが有効です。一方、リアルなストレスはリラクゼーションが重要です。ヨガやマッサージ、ぬるま湯への入浴などで心身を緩めて平常心になった後、現実の問題を一つ一つ書き出すことで原因を見極め、解決策を考えることが効果的です。

私は新型コロナウイルスの流行以前から、心理状態のセルフケアを可能にするスマートフォンアプリ「Awarefy」の開発を、株式会社Hakaliと共同で進めてきました。Awarefyは、心身の状態と実際に起きた出来事を簡単なメモで入力すると、定期的にレポートを受け取れるアプリで、自分の心理状態と物事の因果関係を正しく把握することができます。社会が大きく変わる中で、今後ストレスマネジメントは重要性を増すと考えられ、こうした日常的な対処法が普及することを期待します。

コロナによる 恐慌は起こるか

大学院経営管理研究科教授
岩村 充



新型コロナウイルスの感染拡大に一応の歯止めがかかる一方で、経済の落ち込みが深刻になっています。経済における世の中の大きな関心事の1つに、世界的な恐慌が起こる可能性があげられるでしょう。100年前に流行したスペイン風邪から世界恐慌に至る歴史が、そうした不安を醸成しているのかもしれませんが、しかしコーポレートファイナンスや経済を専門とする立場からいえば、新型コロナウイルスによる恐慌は発生しないと考えています。

アメリカにおける株式市場の暴落から始まったかつての恐慌は、世界的な実体経済の落ち込みに発展しました。しかし今回の新型コロナウイルスにおける実体経済の急激な落ち込みに対し、先進国の株式市場では大幅な下落は生じておらず、通貨においてはドルやユーロの価値が上がる場面も見られるほどです。これは、20世紀に欧米に偏っていた経済規模が、21世紀になりアジアへと移行したことも影響しているでしょう。株価暴落の本質である「人々の心



1974年東京大学経済学部卒業。日本銀行に入行し、主として金融制度全般の企画調整を担当。ニューヨーク駐在員、金融研究所などを経て、98年から早稲田大学教授。国際会計基準委員会委員や政府の各種委員会の座長や委員を歴任。博士(早稲田大学)。2020年2月『国家・企業・通貨—グローバル化の不都合な未来』(新潮選書)上梓。

の弱体化」が、一気に世界経済に波及する時代ではなくなったことを示しています。

もちろん、新型コロナウイルス感染拡大の第二波、第三波に備える必要があり、経済活動に対する影響の長期化は避けられません。日本においては貿易への依存度が高いため、国際経済の影響を受けやすいのも事実です。また、大規模な財政出動によるハイパーインフレが起こるという懸念も生まれています。しかし、日本や欧米の通貨が安定するのは、極めて信頼が高いためです。先進国では長い歴史を持つ統治機構や中央銀行が盤石であり、国民は国家システムの持続を望みます。すると長期的に財政出動を回収することが可能になり、国債を貨幣に換えても通貨価値は安定し続けるのです。

しかし楽観視してはなりません。ここで注視すべきは通貨が下落している新興国です。変動の激しい政権に対する信頼は低く、財政出動の長期的な回収自体ができません。さらに先進国の通貨が強くなることで交易条件は悪化し、ますます困窮に陥ります。一方の先進国は、貨幣価値が上がって物価が下がるので、富む可能性すらあります。世界全体の損失を新興国に転嫁して存続することは、本当に正しいことでしょうか。私たちは、新たな視座に立つべきだといえます。

地球社会における WHOの重要性

国際学術院教授
勝間 靖



国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究所 グローバルヘルス外交・ガバナンス研究科長、The BMJ(ロンドン)国際諮問委員、日本国際保健医療学会代議員、国際開発学会理事。国連児童基金(UNICEF)の職員などを経て現職。持続可能な開発目標(SDGs)、人間開発、グローバルヘルス・ガバナンス、子どもの安全保障などについて研究する。

国境を越えるウイルスの蔓延においては、医療・保健の課題だけでなく、人権・人道・国際協力などの政策課題が複合的に発生します。新型コロナウイルスのこうした政策課題に対し、国際開発や人権論、グローバル・ガバナンスなどを専門とする立場から、医療機関や国際機構と連携しながら研究を進めています。

多くの国は、感染予防と蔓延防止のために行動制限を課してきました。場合によっては公衆衛生の名の下に人権侵害が発生します。その一方、経済を優先する指導者が指揮をとるアメリカやブラジル、集団免疫を獲得するためにあえ



国連児童基金(UNICEF)職員時代、アフガニスタンで勤務した勝間先生。文献と現場を往復した研究が大切だと考え、現在も多くの国際機関と連携した活動を行う

て行動制限を行わないスウェーデンのような事例も見られ、各国の対応は異なっています。

3月23日、アントニオ・グテーレス国連事務総長がグローバル停戦を呼びかけると、70以上の国が賛同し、10以上の紛争当事者が一時的な停戦の受入れを表明しました。しかし、米中の対立が影響し、安全保障理事会での合意は困難でした。閉塞感のなか、日本を含む10カ国の主導で、6月22日、171の国連の加盟国やオブザーバーが事務総長支持の声明を出しました。これが後押しとなり、7月1日、安保理で2532決議が採択されました。

各国の姿勢が異なるなかで重要なのが、協調によって国際保健を推進するグローバルヘルス・ガバナンスです。アメリカの脱退通知によって、世界保健機関(WHO)が動揺していますが、新型コロナウイルス対策の国際調整を担えるのはWHOです。また、途上国では、エイズ、結核、マラリアなど、新型コロナウイルスと並行して取り組むべき課題も多く残されています。さらに、ワクチンや治療薬の研究・開発、国境を越える移動のルール、次なる新興感染症への準備など、山積みの課題の解決にもWHOを中心とした国際協調が不可欠です。自国の利害のみにとらわれず、地球的な視野に立つ姿勢が、日本のSDGsへの貢献にとって重要です。



写真提供: 共同通信社

卒業生の挑戦

新型コロナウイルスに立ち向かう、多くの早稲田大学の卒業生がいます。
2組の卒業生に、活動内容を聞きました。

オリジナルマスクの製作で学生を支援

人気デザイナーとタッグでマスクづくりに挑戦

新 型コロナウイルスの蔓延により就学継続が困難になる学生が増える恐れがあります。早稲田大学校友会東京都23区支部では、少しでも学生に貢献できないかと考え、マスクの製作・配布を通じて支援を集め、その協賛収益を大学への支援金に充てる活動を進めています。

校友会の東京都23区支部は3つのブロックに分かれており、各ブロックが交代で執行部を務めています。私たち第3ブロック幹事会は、今年5月より支部長ブロックとなりました。例年通りの活動ができない中で、「何か新たな試みができないか」と協議を重ねて生まれたのが今回のアイデアです。マスクの調達が困難な中で、知人の若いデザイナーに相談したところ、快く引き受けてくれました。完成したマスクは東京23区支部内の各区稲門会を中心に配布し、協賛収益を大学側の支援活動に寄付しています。

マスクのデザインは、エンジ色のシンプルなもの、デザイナー・佐藤紀夫さんのオリジナリティを前面に打ち出したものを用意しました。佐藤さんは人気アーティストの衣装などを手掛け、人気の高いデザインマスクも既に製作しており、若い世代に使用してもらえそうな斬新なデザインが実現しました。2つのマスクをセットにし、最初は500セッ

早稲田大学校友会
東京都23区支部支部長
金森捷三郎さん



1969年第一政治経済学部卒業。戸田建設株式会社を退任後、NPO法人の手伝いの傍ら中小企業などの経営相談などに当たっている。前大田稲門会会長、同会俳句部新入生。

早稲田大学校友会
東京都23区支部幹事長
金子秀二さん



1981年政治経済学部卒業。電通で番組制作、漫画コンテンツを手掛けた後、現在は不動産の賃貸管理、開発など行う。早稲田大学校友会東京都23区支部では新たな企画、発信などを担当予定。

トを製造。あっという間に売り切ることができました。今後もこの活動が広がり、いつかみんなでマスクを着けて早慶戦に集まることができれば、非常に盛り上がるだろうと思っています。

早稲田大学は卒業生の人数が多く、海外にもネットワークが広がっています。たくさんの卒業生組織がありますが、どの組織も「在学生・大学のために貢献をしたい」という思いは共通しています。こうした一体感を生かして、今後も活動を広げていきたいと思っています。



EXILE、ONE OK ROCK、Kis-My-Ft2などのステージ衣装や映画衣装を手がける、「COTÉ MER」のデザイナー・佐藤紀夫さん。全ての製品を自社工房で手作りにこだわり展開する



シンプルなパターンのマスク(左) ベイズリー柄のパターンのマスクには「To Meet Friends」というコピーに思いが込められている(右)

オンラインショップで早稲田の街を活性化

チケットや物販を全国の卒業生へ

新 型コロナウイルスの猛威は、早稲田の街にも影響を及ぼしています。授業のオンライン化による客足の減少に対して、少しでも行動をしたいと思い、卒業生主導の地域支援活動「わせまちマルシェ」を始めました。

「わせまちマルシェ」は、早稲田にあるお店の食事券や商品などを購入できるオンラインショップです。どなたでもご利用いただけますが、主に早稲田の街に思い出がある卒業生に向けて発信しています。6月1日よりサービスを開始し、現在、約20の店舗にご協力いただき、50以上のサービスを提供しており、寄付金総額は340万円を超えました。売り上げは、サーバーなどの実費以外は全てお店に還元しています。

企画の大きなきっかけとなったのは、早稲田の危機的状況を報じたテレビのニュースです。卒業生の間でも話題が広がる中で、スピーディーに街を救う方法を模索した結果、直接お店の売り上げに結びつくオンラインショップが最適だと考えました。各店舗への協力交渉やサイトの運営は私たち2人でしていますが、各商店街にアドバイスをいただきながら進め、在学生にもポスティングなどで協力をしていただいています。支援者の皆さまに「懐かしい」「頑張ってください」という温かいメッ

2017年卒業生
木暮美季さん



1992年群馬県生まれ。早稲田大学本庄高等学院卒業、2017年法学部卒業。在学中は応援部に所属。卒業後、衆議院議員の秘書を務める。2019年に退職し、都内大学院法学研究科政治学専攻修士課程に入学、国際政治学を専攻。

2015年卒業生
森田善乃さん



1992年神奈川県生まれ。2011年横浜緑ヶ丘高等学校卒業、2015年社会科学部卒業後、総合広告代理店や物流会社を経験。2019年にTrysmを設立し、企業の新規事業の立ち上げや業務効率化のサポートを行う。



「わせまちマルシェ」
の購入画面

カフェ「Whistle CAFE」の店主と打ち合わせをする木暮さん



レストラン「NEW SCH OOL」が提供するオリジナルビール

セージをいただいたり、お店の方がメッセージカードやメールで支援者へお礼を送ったりするなど、新たなコミュニケーションが生まれたことがうれしかったです。また、「わせまちマルシェ」への出店をきっかけに、新しい商品やサービスを始めるお店もありました。支援者の中には、早稲田に足を運べない方もいらっしゃるの、チケットを在学生に提供し、在学生が代わりに食事をするような仕組みなど、今後は新たな試みにも挑戦したいと考えています。

★ 在 学 生

早稲田に エールを送る 応援部主将

応援部代表委員主将
人間科学部4年
宮川 隼さん



早稲田大学応援部代表委員主将。千葉市立稲毛高等学校出身。中学時代より応援部に憧れを抱き、2017年度に入部。2019年12月の交代により主将に就任。創部80周年を迎える2020年度の主将となる。卒業後は海運業界で勤務予定。

気になる人物像



Q どんなことを勉強していますか？
A 人間科学部では、熱中症対策を考えるゼミに所属しています。炎天下で応援をして熱中症に近い症状になる下級生を見てきたこともあり、少しでも役に立てればという思いがありました。現在は卒業論文に向かって準備を進めています。

Q 趣味はなんですか？
A 筋力トレーニングです。普段は戸山キャンパスのトレーニング室に通っていたのですが、自粛期間中はほとんどの時間を自宅での筋トレに費やしました。ベンチプレスは、80kgを3～4回挙げることができます。

大学での学びを最大限に生かし、さまざまな場所で活躍する在学学生を紹介。今回は応援部で主将を務める宮川隼さんと、富士通株式会社の人事担当・本橋遥人さんにお話を伺いました。

リーダー・吹奏楽団・チアリーダーズの3パートで構成される早稲田大学応援部は、体育各部の試合に出向き、応援をすることが主な活動です。新型コロナウイルス感染防止のため試合の休止が始まった2020年2月からは、ほとんど応援活動ができていません。そうした中で、「応援とは何か」ということを改めて考え直すために、オンラインで話し合う活動を行っています。自粛期間中に痛感したのは、「直接声を届けることが、どれだけ応援に力を与えていたか」ということです。応援というのは、極めて抽象的な文化です。言葉にできない応援の魅力を、今後後輩やあらゆる関係者に伝えていく必要性を、改めて感じました。

活動はもちろん、人と話す機会自体が減ってしまったので、部員の気落ちもありました。主将として、部員には定期的に電話で声を

かけて相談に乗るなど、できる限りのフォローを心掛けています。

そうした中、NHK連続テレビ小説『エール』で、早稲田大学応援歌『紺碧の空』の誕生や野球・早慶戦が描かれ、早稲田大学応援部が登場しました。本来であれば放送翌週に野球の早慶戦があり、盛り上がり进行を期待していた部分もあったので、悔しい思いもしました。しかし、たくさんの方から励ましや問い合わせのメッセージをいただいたことで、部員に笑顔が生まれ、私自身も応援部の歴史の重みを改めて実感することができました。

私は、学生が汗を流しながら泥臭く行う応援の姿が、人の心の琴線に触れ、活力を与えるものだと信じています。そんな感動を少しでも多くの人に味わっていただけるように、今後も頑張っていきたいと思います。

写真提供：早稲田大学応援部



★ 卒 業 生

新卒採用の 現場で担う 人事の未来

富士通株式会社
総務・人事本部 人材開発部
人材採用センター
本橋遥人さん



1990年千葉県生まれ。2014年教育学部卒業後、富士通株式会社に入社。本部人事、愛知県海陽中等教育学校への出向を経て、現在人材採用センターにて勤務。在学中は野球サークルに所属。

富士通株式会社で新卒採用と障がい者採用を担当しています。面接はもちろん、インターンシップや説明会などのイベント企画、若年層向けのキャリア教育プログラムなど、幅広い業務を行っています。人事は企業経営の根幹を担う部門ですし、人のキャリア、もっと言えば人生に寄り添う仕事だと思っているので非常にやりがいを感じています。一生懸命フォローした結果入社してくれた新入社員が「活躍している」という報告を受ける時は、特にうれしいですね。

今年度の採用活動では、対面での面接を全て中止にし、原則オンラインで行いました。大型の合同企業説明会も開かれないので、自社主催のオンラインセミナーも積極的にを行っています。業務のオンライン化は大変な部分もありますが、富士通では以前からテレワークを推進していたため、ストレス

を感じたことはありません。ウィズコロナ時代に欠かせないテレワークは本来、場所や時間に制約されないためにあるものです。日本の企業がイノベーションを起こすためには、多様な人材を集めることは不可欠で、子育てや介護など、あらゆる事情を抱える人を受け入れていかなければなりません。ですので、仮にコロナ禍による自粛がなかったとしても、テレワークは多様性の観点から必要不可欠です。

今後日本では、採用のあり方が変わるかもしれません。ジョブ型採用という言葉に代表されるように、ポテンシャルだけではなく技能も求める方向になるはず。そのため大学生は、なんとなく大学生活を過ごすのではなく、自分のやりたいことを見つけ、必要なスキルや教養を身につけることが重要になっていくのだと思います。

気になる人物像



Q 学生時代の思い出は？
A 東日本大震災をはじめ様々な局面で日本各地へボランティアに行きました。活動を通じて、仕事をするなら「世のため人のため」になることをしたいと考えるようになり、社会のインフラを担う富士通への入社を決めました。

Q 趣味はありますか？
A 筋力トレーニングです。毎朝5時に起床してトレーニングすることが最近のルーティンです。これだけ短期間でPDCAを回すことができて、かつ成果につながる自己投資は他にありません！



早稲田大学では、目的やライフスタイルに合わせた生涯学習プログラムを提供させていただいておりますが、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、通常的方式ではなくオンラインでのまなびの場を整備しつつあります。今回はエクステンションセンターが提供する「オープンカレッジ」にて春講座として開講を予定していた講座の一部を紹介します。

微生物がつくる世界

私たち人間と密接に関係する微生物。
人体や地球にもたらす恩恵、
そしてウイルスとの違いはどこにあるのだろうか

微生物は 人間にとって不可欠

人間1人の体内には、1000種類以上、100兆個を超える数の微生物が生息しているといわれています。細胞の数が37兆個といわれているので、それよりも多い微生物と暮らしているわけです。微生物は私たちの健康に恩恵をもたらします。抗生物質や遺伝子組み換え製剤などの医療薬品製造や食料の生産はその代表例です。さらに、最近では微生物を利用したエネルギー問題の解決も期待されています。

現在の人類が地球上に誕生したのは約20万年前ですが、微生物の誕生は40億年も前にさかのぼります。最初が多細胞生物が誕生するまでの25億年もの間、地球上の生命体は全て微生物でした。この長い歴史の中に、微生物は人間が繁栄できる環境の土台作りをしてくれたのです。例えば、私たちにとって不可欠な水が地球に豊富に存在するのは、微生物が大気中の二酸化炭素濃度を調整し、地表の温度を程よく保っているからです。豊かな酸素を含む大気も、光合成を行うシアノバクテリアという微生物の誕生により実現しました。

似て非なる 微生物とウイルス

「生物」という言葉に明確な定義があるわけではないのですが、地球上の生物は動物と植物、微生物から構成されているといえます。これら全ての生物には、生きる仕組みにおける共通点が多くあります。①細胞から構成され、外部環境から独立していること ②外部環境から物質やエネルギーを取り込んだり放出したりしていること(代謝) ③DNAを遺伝情報として自己複製をおこない、子孫を残すこと ④外部環境に適応し、進化するなどです。タンパク質が生命活動の中心的な役割を担っているのも大きな特徴といえます。こうした共通点を持つ微生物のメカニズムを研究することで、人間の生きる仕組みを解明できます。人体実験ができない研究の場でも、微

生物は役立っているのです。

現在問題になっているウイルスは、「生物」と分けて考えるのが一般的です。ウイルスは微生物よりはるかに小さく、細菌濾過器を通過します。DNAではないRNAという遺伝物質を持つものも存在し、遺伝物質を囲むのは生物においては細胞膜ですが、ウイルスの場合はタンパク質です。また、代謝に必要な酵素を持っておらず、自分自身では生命活動を維持できないため、生物に寄生して増殖します。この過程でウイルスは、私たちの細胞内に感染し、遺伝の仕組みをのっくことで増殖するのです。大量に増殖した後は、細胞膜を破って再び外に出て広がります。ウイルスが、「半分生きもの、半分物質」とよくいわれるのは、遺伝物質を持って子孫をつくり、進化するという、私たち生物と類似した点を持っているからなのです。



早稲田大学人間科学学術院教授
赤沼哲史

東京工業大学生命理工学研究所博士課程修了、博士(理学)。理化学研究所基礎科学特別研究員、ケルン大学博士研究員、食品総合研究所特別研究員、東京薬科大学生命科学部助手・助教などを経て現職。専門はタンパク質工学、実験進化学。

講座の一部をYouTubeにて 無料公開

公開講座「オープンカレッジ」は、新型コロナウイルス感染症の流行の影響に伴い、2019年度冬講座や無料体験会、2020年度春講座の開講を中止し、インターネットを用いて受講することができる講座の準備を進めています。少しでも皆さまの向学心にお応えするべく、無料体験会にご登壇いただく予定であった講師の皆さまによる授業動画の一部をYouTube上にて無料公開しています。パソコンやスマートフォン、タブレットなどでご視聴ください。



あらゆる世代の まなびポータルサイト 「まなびのコンパス」

早稲田大学で開講している多数の社会人向けのプログラムの中から、訪問者の目的やライフスタイルに合わせたプログラムを体系的にご案内するポータルサイトです。これから学ぼうとしている方々が何かヒントを得られるよう、実際の受講生や担当講師へのインタビュー、社会人向けプログラムの現場レポートなどの記事も多数掲載しています。



<https://www.wasecom.jp/>



Pick Up!

キャンパスライフ Campus Life

がんばれ!

サークル活動

春学期中の対面での課外活動が原則禁止になる中で、SNSやZoomなどのオンラインツールを使ってこの窮状を乗り切ろうというサークルが出てきています。本来であれば今年の「早稲田学生文化・芸術祭」に出演する予定であった4つのサークルに、自粛期間の取り組みについて寄稿してもらいました。

サークル員62人全員の
思いを込めた
『おうち時間動画』で
全早大生を笑顔にします!



文化構想学部3年
星野歩華さん

情報満載のウェブサイトや
Zoom説明会で
ニューオーリンズジャズの
魅力を伝えてます!



文学部3年
平藤 慧さん

下駄っぱーず

私たちは下駄を履いて踊る、世界でも唯一無二のダンスパフォーマンスサークルです。「下駄っぷ」(下駄×タップ)で音を響かせ、ロックやジャズなどさまざまなジャンルを踊ります。また、毎年1曲オリジナル曲も作成しており、例年は新歓パフォーマンスで披露目しています。通常の活動ができない中で挑戦したのが、メンバー62名全員がそれぞれの家で踊り撮影した「おうち時間動画」です。まずは自分たちが楽しむことで、お世話になっている地

域の方々、OB・OG、そして同じような気持ちを抱える全早大生に元気をお届けしたい!という思いから誕生しました。家の中で踊るには、私たちのアイデンティティである下駄を履くことは到底できません。そのため動画では「ダンス」ではなく「音を奏でる」ことにフォーカスして、通常はドラム音のところを下駄の音に置き換えてリズムを刻んでいます。

おうち時間動画「StaRL」。サークル員62人全員が勢ぞろいする瞬間は壮観です



早稲田大学ニューオーリンズジャズクラブ

早稲田大学ニューオーリンズジャズクラブは、ジャズ発祥の地、アメリカ・ニューオーリンズで生まれたジャズを演奏するサークルです。最初期に生まれた古い音楽から、現代のプレイヤーたちが切り開いている新しい音楽まで、さまざまなスタイルを研究しています。現在メインの活動となっているのは、Twitterを中心としたオンラインでの新歓活動です。「初めてニューオーリンズジャズに触れる方にも伝わりやすく」「直接会えなくても雰囲気が伝わる

ように!」ということを心掛けています。例えば、お勧めの音源をまとめたウェブサイトには、各楽器のソロが始まるタイミングや、サークル員の個人的な感想など、ジャズを聴き慣れていない方でも音源を楽しんでもらえるように工夫しています。また、より詳しくサークルを知っていただくため、Zoomでの説明会も開催しました。

ウェブサイトでは、サークル員お勧めのジャズ動画を「聴き所」付きで紹介しています



お笑い工房 LUDO

お笑い工房 LUDOの活動内容は、主に月1回のお笑いライブ開催と、ライブに向けたネタ見せです。夏までライブは中止になり、新歓活動も通常通りできなくなりました。そこで現在、私たちは、SNSを使った新歓活動に力を入れています。主な取り組みは質問箱、ネタ動画配信、Zoom新歓の3つです。



You Tubeで配信されるネタ動画

絵画会

私たち絵画会は「自由にアートを楽しむ」を理念に活動する芸術系サークルです。主な活動として、週2回の全体活動、月1度の展覧会を行っています。今年は従来の新歓コンパの代替案として、Zoom新歓を開催しました。同時にしゃべれないZoomは、人数が多



サークルの公式Instagram上で行った新歓展。新入生も積極的に作品を応募してくれました

質問箱は、Twitter上で質問できるシステムのことで、新入生からサークルについて気になることや質問を募り、どんどん答えていきます。ネタ動画配信では、サークル会員が過去に披露したネタをTwitterにアップし、新入生が見られるようにしました。どんなネタを作っているのか、ネタのレベルはどうなのか、チェックできるようになっています。Zoom新歓とは、通常の新歓活動をオンラインで行うものです。新入生にとって、サークル員のことや、サークルの雰囲気も知ることができる機会となっています。

質問箱で素朴な疑問は解消、
ネタ動画配信で
実力お見せしちゃいます!



社会科学部3年
西 大輝さん

SNSで公募した作品で
新歓展を開催。
オンライン上でのデジタル
絵描き講座もやってます!



基幹理工学部3年
永島督士さん

キャンパスライフの情報は、ウェブサイト
「早稲田ウィークリー」で随時チェックできます。

早稲田ウィークリー

「早稲田ウィークリー」は、早稲田大学学生部が発行する学生向け広報誌です。ウェブマガジンとして、学生生活に役立つ情報など多様なコンテンツを提供しています。誌面に登場したトピックスも、ウェブサイトにてさらに詳しく紹介しています。



※早稲田ウィークリーの記事を編集して掲載しています。また、記事内容は早稲田ウィークリー掲載時のものです。

♪ 仰ぐは同じき ♪ 稲門会の活動報告

早稲田大学の卒業生団体「稲門会」は登録数1,380を超え、日本全国・世界各地で活発に活動しています。
コロナ禍における活動の様子を紹介します。

守谷稲門会

逆井 誠さん

新型コロナウイルス感染の終息が不透明な中、基本ステイホームですが、平日週4日～5日は自宅でテレワークを実施しています。東京霞ヶ関への通勤時間片道約1時間20分が削減でき、新たな生活スタイルを実感しています。

週末や平日テレワーク終了後、近くの農園(約70坪)に一人自転車で行き、夏野菜(トマト、キュウリ、ナス、スイカ、カボチャ、葉物、豆類など20種くらいの作物)の苗の植え付け、水やり、草取りなど農園管理を行っています。有機野菜作りで、例年新鮮でヘルシーな野菜がたくさん収穫できます。一部は市の子ども食堂に無償提供しています。今年も、豊作になるように頑張っています。自然の中で農園作業をしていると、心身ともにリフレッシュでき、3密回避により新型コロナウイルス感染を心配することもなく、楽しく日々を過ごしています。ちなみに、守谷稲門会の会員のうち、自分を含めて4人が、近くの農園にてそれぞれ有機野菜作りをしています。ご自宅の庭、マンションのベランダなどでプランターを使用して、有機野菜栽培が可能ですので、興味のある方はトライされてはいかがでしょうか？

土いじりで心身ともにリフレッシュ



大学にマスクを寄付

中国留学生稲門会

馬 玉峰さん

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、中国留学生稲門会は主に2つの活動を実施しています。在日中国人校友・中国人留学生に向けて、「特別定額給付金」「学生支援緊急給付金」の趣旨、申請方法の解説、質疑応答などをライブ放送しました。それぞれ200人を超える方にご参加いただきました。海外の中国人校友に向けて、中国の精華大学のMBAクラスとウェブ会議を実施しました。在日中国人校友30人と在中華人民共和国の清華大学MBAクラス30人が、「アフターコロナにおける成長・グローバル事業創造」について、日中両国、それぞれの立場で意見を交わしながら、情報交換しました。

また、早稲田大学にマスク1万枚を寄付しました。寄付先は、卒業しても私たち中国人校友の活動を常に支援してくださっている校友課と、中国人学生の就職活動をサポートしてくださっているキャリアセンターを指定しました。日頃の感謝の思いと、共にコロナ禍を克服したい思いで実施しました。

稲門英語会

宇野昌紀さん

稲門英語会は早稲田大学英語会(Waseda English Speaking Society 略称WESS)の卒業生が会員で、モットーの1つに「学生ファースト」を掲げ、現役学生の支援を行っています。WESSは1892年創立の公認サークルで、主に英語によるスピーチ、ディベート、ドラマの活動を行っています。

5月4日、稲門会執行部と現役学生幹部との懇談会をウェブ会議システムで行い、足元のWESS活動状況の共有、稲門会で支援できそうな事項などについて活発な意見交換が行われました。また、懇談会の内容をフェイスブックに投稿したことにより、励ましのメッセージが多数寄せられたり、活動支援に多額の寄付金が集まったりするなど、現役学生を支援する動きが活発になりました。今後は、7月に現役3生向けの「就活激励会」をウェブ会議システムで行う予定です。



ウェブ会議の様子



モスクワで再開したギターでライブ演奏(2018年)

モスクワ稲門会

長谷川由宇さん

モスクワ市内では通勤や最寄りの商店への買い物を除き、外出禁止令が出ています。飲食店は休業、交通機関の全ての国際線が運休しています。基本的に終日在宅勤務です。アメリカの大手動画配信サイトを視聴しながらお酒をひたすら飲むしか娯楽がありません……。また、「ペリメニ」というロシア風の小籠包のようなものに、しょうゆ・ラー油・酢をかけて、「これはギョーザだ」と自分に暗示をかけて日々食べています。先行きが見えない中、稲門会の会員同士、メールなどで励まし合っています。

冬は寒さが厳しく外出が難しいモスクワで学生時代に弾いていたギターを再開しました。ほかの駐在員とライブ演奏を行うなど楽しい時間を過ごしていましたが、皆任期がばらばらなのでバンドメンバーが固定できないのが悩ましいところです。



稲門会の
詳細はこちら

早稲田学報

早稲田大学校友会が発行する卒業生向けコミュニケーション誌。年6回(毎奇数月15日)発行し、校友会費をご納入の方と定期購読をお申し込みの方のご自宅にお届けしています。『早稲田学報』は、さまざまな業界・分野で活躍する多彩な校友や校友会活動の紹介など、早稲田魂を揺さぶる話題が満載です。8月号の特集は「27のメッセージ」。校友へのメッセージを自由表現で寄せてもらっています。



早稲田大学 校友会

校友会は、早稲田大学の第一回卒業生が出た翌年、1885(明治18)年に発足して以来、日本全国・世界各地に組織を広げて活動する同窓会組織です。校友の親睦を深め、母校・後輩を力強く支援するとともに、校友の人生を応援するサービスの充実に努めています。在学生・卒業生のご父母で、会費をご納入いただいた方は、父母会員としてサービスを利用することが可能です。
<http://www.wasedaalumni.jp/>



早稲田大学の創設者であり、
近代日本の設計者としてもさまざまな功績を残した大隈重信。
「進取の精神」「久遠の理想」——
今なお受け継がれる大隈の、早稲田の精神を、
叡智と情熱にあふれる大隈自身のことばで、毎号紹介します。

人生は決して平原ではない。
山もあれば谷もあり、川もあり、
坂もあり、峠もある。
不撓不屈とはこれらの險難に
うち勝つ精神を言ったものである。

出典：『大隈重信演説談話集』早稲田大学編（岩波文庫）
協力：早稲田大学大学史資料センター



表紙写真

＜「人とベガス」像＞

スウェーデンの彫刻家カール・ミレス（1875年－1955年）の作品。ギリシャ神話の英雄ペレロフォンがベガスに乗って、怪物の退治に向かう姿を表している。早稲田大学所沢キャンパス（埼玉県所沢市）に、学生たちに大きく羽ばたいてほしいという願いを込め、1987年の開設にあたり設置された。同キャンパスは人間科学部とスポーツ科学部の2学部。

発行 早稲田大学 広報室広報課◎
〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104
Tel 03-3202-5454 E-mail koho@isl.waseda.jp

<https://www.waseda.jp/top/>



WASEDA VISION 150

大隈重信が宣言した早稲田大学教旨を受け継ぎ、
本学は、創立150周年を迎える2032年の大学のあるべき姿をイメージし、
向こう5-10年間でなすべきことを中長期計画
「WASEDA VISION 150」として2012年に策定しました。
研究、教育、貢献の各面で「世界で輝くWASEDA」をめざして現在各施策を展開しています。
詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。
<https://www.waseda.jp/keiei/vision150/>



WASEDA University
早稲田大学